

令和 8 年度 島根県立大学 看護栄養学部 看護学科
【学校推薦型選抜(しまね高大連携推薦/指定校推薦)
(しまね高大連携推薦/専門高校・総合学科枠)】
【社会人・学士特別選抜】【帰国生特別選抜】

小論文試験問題

(試験時間 90 分)

注 意 事 項

- ① 開始合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
- ② 受験番号、氏名を問題用紙、解答用紙の所定の欄に記入してください。
- ③ 開始の合図があった後、問題用紙を確認し、印刷不鮮明の箇所などがあった場合は、直ちに申し出てください。
- ④ 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
なお、解答は横書きで記入してください。
- ⑤ 試験時間中の退室はできません。
- ⑥ 問題用紙、解答用紙、メモ用紙は、試験終了後回収します。

受 験 番 号	氏 名

問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「利他」の反対語は「利己」とされています。「あの人は利己的だ」というと、自分のことばかり考えて、他者のことは顧みない人を批判する言葉ですよね。これに対して、「あの人は利他的だ」というと、自分の利益を放棄して、他者のために尽くす人を称賛する言葉になります。なので「利他」の反対語は「利己」。そう認識されています。

確かに、表面的には「利他」と「利己」は対立しているように見えます。両者は真逆の観念で、一方は称賛され、一方は非難されます。

しかし、どうでしょうか。

例えば、ある人が「評価を得たい」「名誉を得たい」と考えて、利他的なことを行っていたとすると、その行為は純粋に「利他的」と言えるでしょうか？行為自体は「利他的」だけれども、動機づけが「利己的」な場合、私たちはどのような思いを抱くでしょうか？

おそらく、そのような行為は、利己的だと見なされるでしょう。一見すると、利他的なことを行っているのですが、端々に「いい人だと思われたい」「称賛を得たい」というような下心が見え隠れしていると、やはりその人は「利己的な人」と見なされるのではないのでしょうか。「あの人が褒められたいからやってるだけだよね」と思うと、途端に「利他的な行為」がうさん臭く見えますよね。その行為を「利他的で素晴らしい」と手放しで礼賛する気にはならないでしょう。（中略）

——「利他」と「利己」。

この両者は、反対語というよりも、どうもメビウスの輪のようにつながっているもののようです。

利他的なことを行っても、動機づけが利己的であれば、「利己的」と見なされますし、逆に自分のために行っていたことが、自然と相手をケアすることにつながっていれば、それは「利他的」と見なされます。

「利他」と「利己」の複雑な関係を認識すると、途端に「利他」とは何か、わからなくなってきます。

「利他」の問題を考える際、私がとても重要だと考えている一冊があります。^{かしら}頭木弘樹さんの『食べることと出すこと』です。

頭木さんは、二十歳のときに潰瘍性大腸炎^{かいよう}を患い、五十代になった今も、病気と付き合いながら生活しています。そのため、何でも食べられるわけではなく、「これを食べると激しい腹痛や下痢になる」というものがあります。

あるとき、頭木さんは仕事の打ち合わせで、食事をする事になりました。指定の店に行くと、すでにお勧めの料理が注文されており、頭木さんが選ぶことができない状態でした。注文された料理が出てくると、それは食べることができないものでした。

相手は「これおいしいですよ」と、頭木さんに勧めます。ちなみに、その人は頭木さんが難病を抱えており、食べることができないものがあることを知っています。頭木さんは「すみません。これはちょっと無理でして」と答え、食べられないものであることを伝えました。

相手は「ああそうですか。それは残念です」と答え、その場はいったん収まったものの、しばらくすると、また同じものを勧めてきました。「少しくらいなら大丈夫なんじゃないですか」と言って、食べることを促します。難病を抱える頭木さんにとって、その料理を口にすることは、いくら「少しくらい」であっても、大変な不調をきたすことにつながり、どうしてもできません。そのため、手を付けないままにしていると、周りの人まで「これ、おいしいですよ」とか「ちょっとだけ食べておけばいいじゃないですか」とか言いながら、同調圧力を強めてきます。その場は、気まずい雰囲気になり、結局、その相手からは仕事の依頼はなくなったと言います。[頭木 2020:112-114]

この相手の行為は、「利他」と「利己」の問題を考える際、重要な問題①を含んでいます。

確かに相手は、頭木さんに「おいしいものを食べさせたい」という利他的な思いがあったのでしょう。だから、自分で店を予約し、お勧めの料理を前もって注文するという手間のかかることを行ったわけです。

ただし、いくら他者のことを思っで行ったことでも、その受け手にとって「ありがたくないこと」だったり、「迷惑なこと」だったりすることは、十分ありえます。実際、頭木さんにとって、食べられないものを食べるように勧められることは、迷

惑どころか、場合によっては命の危険にさらされる危険な行為です。当然、受け入れることはできません。

しかし、相手の「お勧め」を断ると、場が気まずくなります。そして、自分の思いが受け入れられなかった相手は気分を害し、徐々に「利他」の中に潜^{ひそ}んでいた「利己」を前衛化させていきます。頭木さんの病気を熟知している上、「食べられないものだ」ということを知らされても、時間が経つと「少しぐらい大丈夫なんじゃないですか」と言って、自己の行為を押し付けようとします。こうなると、「この料理を食べさせてあげたい」という「利他」が、「自分の思いを受け入れないなんて気に入らない」「何とかおいしいと言わせたい」という「利己」に覆^{おお}いつくされ、頭木さんに襲いかかってきます。利他的押し付け②は、頭木さんにとっては恐怖でしかありません。

引用：中島岳志，思いがけず利他，株式会社ミシマ社，2021，pp. 102-107

問 1 下線部①の「重要な問題」とはどのようなことか、課題文から著者の考えを読み取り、100 字以内で述べなさい。

問 2 下線部②「利他的押し付け」について、これまでのあなたの経験を踏まえ、あなたの考えを 300 字以内で述べなさい。

問 3 著者が主張する「利他的押し付け」を踏まえ、あなたが現時点で考える看護について 600 字以内で述べなさい。